

第16回 口腔機能って何だろう？

＝ 「口腔機能」は、“人”として寄り添い、“心”に配慮して改善する ＝

北九州在宅医療・介護塾
塾長 久保 哲郎

前回は、高齢療養者の口腔機能低下は、加齢や廃用、低栄養や疾患等の療養者側要因（全身虚弱化）と、社会制度、生活環境、キュアやケア環境等の環境的要因で生じることを紹介しました。

そのため、低下した口腔機能を改善するには、個々の高齢療養者に関わる様々な療養者側要因と環境的要因に対して、専門的知識と技術でもって連携・協働することが必要となりますが、しかしながら、日常的には“連携・協働”の必要性を理解していても、専門的な知識の壁によって“連携・協働”を図ることを不可能にしているようです。

その理由の一つは、高齢療養者の症状を専門的な知識のみで虎視するために偏った方法で診てしまい、そのため症状の変化のみに囚われてしまうことで他の専門職がどのような方法でケア等をしているのかに関心が持てなくなるからだとされています。

それでは、専門職種はどのような方法を摂れば良いのでしょうか？

その方法の一つとして、高齢療養者に関わっている専門職種と同じく高齢療養者も“人”であり、また同じ“心”を持っていることを理解し、真摯な気持ちで応えることだといわれています。

黙っていても、目を閉じていても、高齢療養者の五感はしっかりと機能していますので、専門職種の一つ一つの言動は十分に伝わっています。

そのため、「生活（医療・介護）の場」において高齢療養者に対して“人”として寄り添い、不安や恐怖、羞恥心や嫌悪感を与えることがないように、高齢療養者の“心の在り方”に十分に配慮することが、専門的知識によって築かれた壁を取り除くことに繋がり、結果として「生活（医療・介護）の場」における“質の向上”を視野に入れた“連携・協働”が可能になるといえます。

口腔機能改善を図るには・・・

